

事業所名

児童・放課後デイHOPE（児童発達支援）

支援プログラム

作成日

令和6年

11月

1日

法人（事業所）理念		発達障がいなどの困難を抱えた子どもに愛情を持って、誠実に寄り添い、本人が普段感じている「生きづらさ」と向き合い、それを軽減するための最善の方法を自らはもちろんチームで考え、関係者や保護者とも連携し実行します。また、利用者の安全確保と法令順守に努めます。						
支援方針		本人が将来、希望（HOPE）をもって社会参加・自律ができるように成長の手助けを行います。その仕事を通じた過程において私たちスタッフも成長を目指します。利用者の将来が明るい方向に向かうことにより、家族の未来、地域の未来も明るくなります。利用者の喜びは私たちHOPEスタッフの喜びであり、HOPEが存在し、継続・発展する証となります。 個々の特性に応じてお子さんを手厚く個別で支援を行います。						
営業時間		平日	12時	30分	19時	30分	送迎実施の有無	あり なし
		土曜	11時	30分	18時	30分		
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	通所時の安全（階段やエレベーター利用における安全、保護者の車からの乗り降りの安全）の様子を把握し個々に応じて支援します。手洗い・うがい等が自発的に行えるように道具を整え衛生的な活動を促し、健康的な生活習慣について学ぶ機会を作ります。意思表示や特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細やかな観察を行います。生活のなかで様々な遊びを通して学習できるような環境を整えていきます。基本的な生活スキルの獲得や障がいの特性に配慮しながら、時間や生活習慣を本人に分かりやすくしていきます。						
	運動・感覚	発達段階に応じた遊びを体験することで達成感が感じられるよう取り組みます。日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢運動・動作の習得、トランポリン、バランスボール等を通してバランス感覚を養い、体幹を鍛えて正しい姿勢を身につけられるように支援します。感覚の特性を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整の支援も行います。家庭生活での様子をお伺いしながら個々の特性に応じて、手先訓練・散歩・外遊び等を取り入れます。障がいの特性に応じて就学に向け、鉛筆の持ち方や手の動かし方、筆圧をつける練習し、書ける喜び、読める喜びも味わえるよう取り組みます。読み書き能力の向上のための支援を行います。						
	認知・行動	視覚、聴覚、触覚の感覚を十分活用し、認知機能の発達を促す支援を行います。モンテッソーリの教具を使うなど物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間や時間の概念の形成を図りながら、数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行います。感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防や適切な行動への対応の支援を行います。達成感や自己肯定感を保持できるように、過程を大切に取り組みを見守ります。						
	言語コミュニケーション	絵本の読み聞かせ、語りかけなど具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、言語の習得、自発的な発声を促す支援を行います。相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行い、コミュニケーション能力の向上のための支援を行います。						
	人間関係 社会性	他者との関わり、人との関係を意識し、身近な人との信頼関係を基盤として周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行います。遊びを通じて人の動きを模倣することで社会性や人間関係の芽生えを支援します。感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊び、ごっこ遊び、役割分担、ルールを守る遊びを通して徐々に社会性の発達を支援していきます。						
家族支援		保護者会を毎年行っています。保護者からの要望をお聞きしたり、事業所での活動の様子をお知らせしたり、情報の共有を図ります。本人の気持ちを大切にしながら、困りごとについて共に考えます。				移行支援	家庭や子ども園、他事業所での活動の様子を把握し、スムーズに園生活が送れるように園や相談支援員さん、関係機関との連携を図ります。進級、進学に備えて準備を整える補助的な役割を担います。	
地域支援・地域連携		担当者会議などを定期的に行い、職員の共通理解のもと関係機関と連携を保ちながらより良い支援を心掛けます。				職員の質の向上	法人の理念の理解と実践ができるように、定期的に研修を積み、本人の気持ちに寄り添った支援ができるように、個々の情報を共有し、支援の在り方について検討します。	
主な行事等		避難訓練・伝統行事を楽しむ会・遠足・クッキング・HOPE農園での農業体験や収穫						